

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

（代表者 中村 勝徳 会員数 約60,000人）

T E L 03-3267-8583

1 前 文

今年で5年目となる共通テストは、2022年4月の高等学校の学習指導要領の改訂に伴う新課程テストであった。昨年までと同様に、聞き取った音声を他の表現に言い換える力や、様々な情報を聞き取り、ワークシートや図表、選択肢と照らし合わせて整理する力を問うことを通して、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっている。情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。

今年の共通テストでは、2022年に発表された試作問題を反映した出題がなされた。あるテーマについての大学の講義を聞き、その内容を伝え合ったり、自分たちが調べてきたことを踏まえてディスカッションをする場面を取り上げることで、「聞くこと」と「話すこと [やり取り]・[発表]」の統合的な言語活動により、学んだ内容の理解をより深めるような学習の過程を設定した問題である。

「各設問では、こうした学習の過程で求められる力、例えば、講義を聞いて概要・要点を把握する力、聴き取った情報を他者と共有したり、話し合ったりする力、聴き取った情報と問題文中に示されたグラフ資料を統合的に処理する力等を問う」とされた問題が第5問で出題されたが、今年度新たに問題出された問題も含め、受験者が戸惑うような部分はなかったと思われる。

大問数は6問で、マーク数も37と昨年度と変わらなかったが、細かな内訳をみると第1問Bの短文イラスト選択問題が昨年度の3問から今年度は4問と一つ増え、第2問の対話文のイラスト選択問題が今年度は3問と昨年度より一つ減少している。

なお、「英語（リスニング）」は「英語（リーディング）」と並んで共通テスト受験者のほとんどが選択する科目である（令和7年度教科選択率97.9%）ことを考えると、他の科目よりも一層丁寧な作問が求められることは留意いただきたい。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和7年度の共通テスト追・再試験「英語（リスニング）」は以下のような構成であった。

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	28	4	A：短文内容一致問題	2
		4	B：短文イラスト選択問題	
2	12	3	対話文イラスト問題	1
3	18	6	対話文選択問題	
4	12	8	A：モノログ図表完成問題	
		1	B：複数のモノログ選択問題	
5	16	7	講義内容選択問題	
6	14	2	A：対話文（2者）選択問題	
		2	B：対話文（3者）選択問題	
合計	100			

前文でも触れたが、出題形式、配点、読み上げ回数については、大きな変更はなかったと言える。

今年度の問題も、イラストやグラフ、図表が数多く使用されていたり、単純な英語の聞き取りだけではなく、様々な場面や目的に応じた思考力や判断力が問われている。また、話者についてもアメリカ人だけではなく、日本人を含む非ネイティブと思われる多様な話者が含まれていた。また、共通テスト開始当初問題となっていた各問の解答時間については、いずれの問いにおいても十分に確保されており、受験者が落ち着いて取り組めるようになっていた。

第1問 短い発話を聞いて、内容と合致する選択肢を選ぶ問い。Aは短い発話を聞き、短文の選択肢から正解を選ぶ問題である。Bは短い発話を聞き、その内容と合致するイラストを選ぶ問題である。

問1 発言の内容から状況を答える問題。選択肢は現在進行形と現在完了形により細かく場面が描写されている。標準的な難易度である。

問2 発言の内容から話者の感情を答える問題。①の錯乱肢は不満を抱いている対象が誤っている。

問3 発言の内容から状況を答える問題。

問4 「写真をメールで送ってください」という依頼を聞き取る問題。写真を「あなたが送る」という依頼から「私が受け取る」という正解を選ぶ。

問5 「もうすぐチキンが焼きあがる」という発言。“almost done”が聞き取れば平易である。

問6 持ち込める飲物の種類についての発言。“except ～”の理解がポイント。

問7 “leave the water running”の理解がポイントであるが、続く“What a waste!”から解答は容易である。

問8 Tシャツのデザインの描写。イラストも分かりやすく標準的な問題である。

第2問 日本語で書かれた場面について短い対話を聞き、その内容と合致するイラストを選ぶ問題。設定された場面や示されたイラストはいずれも分かりやすく、受験者は聞き取りに集中できたと思われる。

問9 ポスターに配置する図表等の位置についての対話。基本的な場所を示す表現（in the middle / at the bottom）により容易に解答できるが、“summary”に該当するイラストはやや不明瞭。

- 問10 適切なシンボルマークを選ぶ問題。“doesn't fit”，“doesn't either”，そして“lack”が理解できれば平易な問題。
- 問11 自転車を止める場所を選ぶ問題。場所を示す前置詞の聞き取りと理解が求められる。また，“gate”と“door”の違いも理解する必要がある。「雨が降るかもしれないので、フェンスのそばに置いてもいいか」という発言はやや不自然にも思われる。「屋根の下（under the roof）」等の表現でも問題の趣旨は変わらなかったのではない。
- 第3問 第3問より音声は1回しか流れない。2.5～3往復の対話を聞き、設問に答える問題で、第2問と同様に日本語で対話の場面が記されている。対話の概要や要点を把握する力に加えて、聞き取った内容を言い換える（パラフレーズする）ことも求められている。
- 問12 受験者を惑わすほどではないが、「女性が作った家具について尋ねています」という場面設定はやや違和感がある。
- 問13 女性が学生にしている提案の内容を答える問題。標準的な難易度で良質である。
- 問14 男性の感情を答える問題。男性の最後の発言から感謝していることが理解できる。他の選択肢も含めて考えると語彙の知識が問われている側面が強いが、難易度としては低い。
- 問15 対話の内容から女性が次に取るであろう行動を答える問題。場所（the restaurant/the convenience store）と食事の内容（a full breakfast/coffee and a sandwich）の組合せで正しいものを選ぶ。標準的な問題。
- 問16 定期券の購入についての対話の後に男性が取るであろう行動を答える問題。やや複雑な内容で、使用されている語彙もリスニングの際にはやや高度なものが含まれる（valid/fares）。
- 問17 対話の内容から女性がやろうとしていることを答える問題。中盤の“trying to rearrange my work days so I can go.”の聞き取りがポイントだが、示された選択肢からも解答は容易である。
- 第4問 Aはグループの発表を聞き、ワークシートのグラフを完成させる問題と、食料品店に運ばれる食材についての説明を聞き、表を完成させる問題。Bは企業の研修先として四人の話を聞き取り、条件と合うものを選ぶ問題で、これまでの共通テストでも出題されてきた形式である。
- 問18～21 学生の間でもっとも人気のあるアルバイトについての発表からグラフを完成させる問題。増減を表す表現を聞き取ることで解答できるが、増減を表す直接的な表現ばかりではなく、難易度としては高いと感じられる。
- 問22～25 食料品店に運ばれる食材についての説明を聞き取る問題。説明される食材の数も多く、それぞれの予定についても複雑で、一度で聞き取るには相当の集中力を要する。また，“peaches and grapes”＝“fruit”などの言い換えが含まれたり、Saturday/Sunday＝weekendとまとめて示されている点も難易度が高い。選択肢は2回以上使っても良いとなっていたが、複数回使用する選択肢はなかった。
- 問26 企業研修先を決めるために、四社の説明を聞き、条件に合うものを選ぶ問題。上述のとおり、共通テスト開始以来出題されてきており、受験者にとっても戸惑いはないと考えられる。作問のために様々な状況や条件を検討され、ご苦労されていることは想像に難くないが、場面や状況に応じて必要な情報の概要や要点を聞き取りながら、語彙・文法などの知識・技能的側面も問う良問であるので、引き続き継続していただきたい。本問では条件Bの「従業員の半数以上を地域住民から採用している」部分について、様々な表現（more than half/a third/from around the world等）が使われているが、難易度としては標準的である。
- 第5問 追・再試験においても、第5問では、試作問題からの出題が含まれた。昨年度までは「状況」のみが与えられた上で、講義を聞きワークシートを完成させる形式だったが、今年度では「状況」に加え「活動1」～「活動3」が示された。試作問題でも示されていたように、各設問において、

学習の過程で求められる力を問う問題を、「リスニング」という試験において出題することに尽力
いただいていた作問者の皆様には改めて感謝の意を伝えると同時に、今年度の結果を踏まえ、引き
続きの創意工夫をお願いしたい。講義内容は都市計画と気候変動についてであった。

問27 講義のキーワードであるPassive cooling designについて正しい説明を選ぶ問題。錯乱肢も巧
妙に作られており難易度は高い。

問28～31 活動1として、ワークシートの空欄に適切な選択肢を選ぶ問題。いずれの選択肢も単語
で、やや高度な語彙(vegetation)も含まれていた。空所はGreenery, Street layout, Buildings
の3つの項目のうち、2つ目のStreet layout以降にあるので、受験者も余裕をもって解答するこ
とができたのではないだろうか。また、与えられた選択肢のうち⑥windが2か所(28・30)
に当てはまる。ワークシートは講義の内容の要点をまとめるようなものとなっており、それぞれ
のDesign AspectのBenefitを聞き取る必要があることが読み取れるため、受験者も聞き取るポイ
ントを把握しやすかったと思われる。活動1の部分の作問については、難易度は高いが良問であ
ると言える。

問32 試作問題からの出題。活動2として、講義の要約を書く準備をしている場面。講義内容につ
いて二人の発言を聞き、その正誤を答える問題。Student Aの最初のAlthoughを聞き逃さなけれ
ば容易に解答できる問題であった。

問33 活動3として、三人で図表を見ながらディスカッションの準備をしている場面。示されたグ
ラフでは、予想に反するデータが示されており、話者の一人(Joe)もその点について言及してい
る。また、正解の②の前半部分(Low-rise buildings can cool cities)については講義の内容を正
確に理解し、それを記憶しておかねば判断が難しい。本問では、講義の内容を踏まえ、複数人の
意見を聞き取り、図表を読み取り、選択肢の内容を読み取らなければならない。限られた時間の
中で、受験者は多くの情報処理が求められており、問題の難易度は高いと言える。しかしながら、
このような行為はまさに授業の前後で行われていることでもある。これまでの学校生活で得てき
た経験の差が強く影響する設問であり、高等学校での授業の在り方等にも影響を与えうるとい
う観点で良問という評価ができる。

第6問 Aでは二人の対話を聞き、問いの答えとして適切なものを選ぶ問題。「夜食」がテーマだっ
た。ここでも意見をまとめたり、言い換えたりする力が問われている。一方Bではスマートフォ
ンの使い方について三人の学生が話す内容から、それぞれの立場を理解する力と、考えの根拠となる
データ(図表)を判断する力が問われた。

問34 話者の一人(Rachel)が示した意見を選ぶ問題。

問35 もう一人の話者(Frank)が決めたことを選ぶ問題。

いずれの問いの正解も選択肢では言い換えがなされているが、難易度は標準的である。

問36 会話の最後で三人の話者がどのような立場にあるかを問う問題。話者の数が昨年度の四人か
ら三人へと減少し、受験者には取り組みやすくなった。Robの立場を決める発言の、“I’ll give it
more thought.”が聞き取れたかどうかポイントとなる。

問37 誰がどのような発言をしたかを正確に理解する必要がある点においては、難易度は高いが、
いずれの図表もタイトルがはっきりしており、音声を聞く前に下読みできていれば確実に正解で
きる問題である。

3 総評・まとめ

本稿では2025年度(令和7年度)共通テスト「英語(リスニング)」「追・再試験」について検討
してきた。大学入試センター発表の問題作成方針にも示されているように、「文字や音声による試験

の特徴を生かしながら、「可能な限り総合的な英語力を評価する」という方針での問題作成には、相当量の手間に加えて創造力を要すると思われる。様々な場面や状況を設定し、その中で知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっており、また、外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。受験者が高校生活で得てきたことを生かせるような良問も多い。

しかし一方で、技能統合的な理解を求める問題や、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を問う問題については、改善の余地がある。昨年度までの平均点の上昇傾向を受け、難易度を上げる意図の下になされた作問もあると思うが、あくまでも「リスニング」の力を図る試験であることを念頭に置いた作問をお願いしたい。例えば、講義の内容や会話の話題の抽象度であったり、音声の読み上げ速度に変化を加えることでも難易度の調整は可能であると考ええる。一方で、資料やデータの数を増やしたりすることにより、受験者の作業量を増やすような負荷のかけ方については、慎重な検討が求められるところである。また、追・再試験の問題については、総じて使用されている語彙のレベルが本試験よりも高い印象を受けたが、示された図表については作問の趣旨に合致していると感じるものも多く、それにより本試験との難易度の差異がほぼなかったと評価できる。

4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）の方に記載。